

No.126 春

2021年4月26日発行

グランドゼロ

GROUND ZERO JCF

- 震災から10年、
福島とのつながりから学ぼう
- 南相馬&杉並
トモダチプロジェクト
- ゆでガエルにならないうちに
- イラク、モスル支援

チェルノブイリ原発事故から 35 年、福島から10年

ひとのあかし

若松丈太郎

ひとは作物を栽培することを覚えた
ひとは生きものを飼育することを覚えた

作物の栽培も

生きものの飼育も

ひとがひとであることのあかしだ

あるとき以後

耕作地があるのに作物を栽培できない

家畜がいるのに飼育できない

魚がいるのに漁ができない

ということになったら

ひとはひとであるとは言えない
のではないか



フレコンバッグが置かれている福島県浪江町（2016年）

表紙文字「ひとのあかし」

詩人、若松 丈太郎さん 福島県南相馬市在住



Facebook



Twitter

SNSで
情報発信
しています!

震災から10年、福島との つながりから学ぼう

JCF 理事長 鎌田 實



10年前、東日本大震災が起きました。すぐに、当時、福島県南相馬市小高病院の院長をしていた遠藤清次先生の携帯に電話をしました。つながらない。何回かけてもつながらない。やっと、3月16日未明、状況を聞くことができました。「大変です。スタッフ達と、小高病院から市立南相馬総合病院に患者さんを全員移送しました。薬はない。患者さんを運ぶ車のガソリンもない。重症な患者さんのための酸素もない。」との事でした。すぐに、支援を決めました。南相馬市長から、茅野市長と諏訪中央病院院長宛にFAXで緊急支援の要請文を出してもらいました。諏訪中央病院から医師や看護師、薬を準備しました。しかし、新幹線は止まっています。高速道路も閉鎖されています。そこでJCFのボランティアさんが運転する車で、遠回りをしながら、

南相馬をめざしました。JCFは緊急支援のための募金を募り、世界中からたくさんの寄付が集まりました。

避難所では、冷たいおにぎりと菓子パンしか食べてない、と聞き、熱々のおでんを食べてもらうことにしました。医師や看護師さん達は、1週間おきに交代し、JCFと諏訪中



おでんの炊きだし

央病院の連携によって、福島第一原発から20～30キロにかけて広がる南相馬の支援が始まりました。



諏訪中央病院第一次派遣 医師、看護師達

僕は、頻繁に東北に通うようになりました。福島の経済が少しでも良くなるようにと、毎年、障害のある人たちを2泊3日でお連れしました。この年は、いわきの食品を扱っているお店で食事をし、お土産を買いました。障害者の方達も支援ができると大喜びでした。



皆で福島を応援する

双葉食堂の豊田さんは、震災が起きた後、新潟県の三条市に避難しました。僕は、もう一回ラーメン屋を再開しましょう、と励まし、色紙を贈りました。「生きているって素晴らしい。命のラーメン」と書きました。行く度に、ここのラーメンを食べます。双葉食堂は福島でも指折りの美味しい食堂です。テレビでも何度も取り上げられて、多いときには1日400食もラーメンを作りました。たくさんの方をお連れしました。共に働く女性達は被災した方達です。働く事はとても大切で



美味しい双葉食堂

すね。やはり、小高区で津波で家を無くしてしまった横山さんのお宅には、僕だけではなく、JCFのスタッフ達が何度も泊まらせていただきました。

福島の人たちは暖かくて、親戚みたいに感じます。

南相馬の高橋享平先生と共に赤ちゃんの支援をしました。先生はご自身が末期がんを抱えていましたが、「子供の居ない街は絶滅していく」と言い、南相馬から離れようとしませんでした。先生は、妊婦さん達に「時間がある時には、病院に来て、コンクリートの建物の中で休みなさい」と病室を解放しました。妊婦さんの家に鉛の入ったカーテンを付けたり、被ばくを防ぐように産婦人科医とは思えないような工夫をされて、妊婦さんを守ろうとしていました。こういう骨のある専門家が福島にはたくさんいました。



原町中央産婦人科医院 高橋享平先生とスタッフ達

僕は子ども達と向き合おうと、「いのちの授業」を毎年やってきました。



いのちの授業

この写真は絆診療所の管理栄養士鶴島さんの娘さんが通っていた中学です、次は飯館中学です。皆、飯館に帰る夢を持っていました。この子ども達は今年で成人式を迎えました。僕は子ども達に色紙を贈りました。「自由」と「勇気」と書きました。飯館中学の授業が終わった時、男の子が「先生、自由と勇気が大切なんです」と言い、近寄ってきました。僕に念を押ししたのです。とても印象に残っていましたので、その言葉を書きました。

JCFの取り組み



飯館村訪問

ベラルーシの高汚染地ベトカ地区病院長、ナージャ先生が福島で自分の経験を話すために、来日し、飯館を訪れました。この「グラ

ンド・ゼロ」でも紹介した、飯館の復興を目指している佐藤健太くんが案内してくれました。佐藤くんの祖父の家の雨樋の下が100マイクロシーベルト以上だった事に愕然としました。

JCFがチェルノブイリに100回以上の医師団を派遣して学んだ事は3つ。甲状腺を含めての健康診断、放射能の見える化をするため、食べ物の測定、そして保養。JCFの松本の事務所に放射能測定室を作り、信州大学の理学部物理学科の学生がオペレーターを努めています。信州大学名誉教授の三輪先生が室長になって、質の高い測定をし、山野草やキノコの測定をし、結果はインターネットで公開してきました。福島から保養に来た子ども達には、信州大学医学部附属病院で健康診断が受けられます。10年間に渡って、このような活動ができたのも皆さんのご支援があったからです。

活動への応援をありがとうございます

加藤登紀子さんの写真です。

加藤さんもJCFを応援すると言って、「ふくしま・うた語り」を作ってくれました。この中には、若松丈太郎さんの「神隠しされた街」を加藤登紀子さんが



加藤登紀子さん「ふくしま・うた語り」作曲し、歌っています。「海よ大地よ」という鎌田の作詞と語り、作曲加藤登紀子さんの作品もあります。CDはまだ少し残りもあります。皆さんに応援していただけたら、これからの活動を続けていくことができま



避難されたお母さん達と

す。ぜひ、応援してください。

小さな子ども達がいるお母さん達が、全国各地に避難しました。話を聞きたい、と言われ、山形にも行きました。

原発を考える

被災三県の避難者数は圧倒的に福島が多いです。今も県外に避難している人が約2万9000人、県内避難者数は約7000人です。皆、福島が大好きで帰る事を望んでいます。福島に残った人も、福島から出た人たちも、辛い10年でした。その両方の気持ちにJCFは寄り添っていきたい、と考えてきました。



震災直後 新地駅

福島の再生・復興は、とても複雑です。溶け落ちた核燃料の処理は今年度中に始まる予定でしたが、まだ、目処が立っていません。汚染水をためるタンクもあと一年で満杯となります。2016年に経済産業省が発表した試算

によると、廃炉や除染、中間処理施設などで21.5兆円かかると発表していますが、多くの専門家は、処理水の問題を含めると80兆円を超す、とみています。鉄骨がむき出しになった1号機や灰色のカバーで覆われた4号機、メルトダウンした核燃料棒の取り出し、こう言う難題が山積みになっています。この福島の10年の苦渋はとても重いです。日本で今後原発をどうしたらいいか、冷静に考えてほしいと思います。福島では原発に頼らないで、



さだまさしさんと共に被災者を励ます自然エネルギーで100%まかなう、と考え、行動している県民が増えています。福島の人たちを思い、日本全体でエネルギーをどうしたらいいか考えていけば、いい結論が出てくるように思います。10年経ったから、大丈夫ではありません。JCFはこれからも福島を支えて行こうと思っています。チェルノブイリにも通います。そして、チェルノブイリで起きたことを福島に活かしていきます。チェルノブイリの悲劇から35年経ちます。ベラルーシやウクライナでどうなっているかウォッチしながら、会員の皆さんに報告していこうと考えています。これからも、応援よろしくお願いします。

南相馬 & 杉並 トモダチプロジェクト



狩野 菜穂(代表)

杉並から南相馬に向かった



2011年東日本大震災。当時、杉並区に在住していたnappoは、杉並区と災害相互援助協定のある福島県南相馬市の少年野球チームに物資を送るボランティアに参加。当時人の少なくなった南相馬市と、少年野球の関係を通じて交流が始まり、南相馬市内のパン屋さん「パルティール」の歌を作る。スーパーのパン売り場で流れるその歌で、小さな子供達が踊っていると聞き、2011年11月、機材一式を詰め込んで東京からアコースティックライブをしに南相馬を訪れる。初めて見た津波の跡の海岸の様子や、うず高く積み上げられた廃材の山を見、言葉を失う。

「もうここで、野球はできないよ」と言わ

れた少年野球のコーチの言葉に、初めて涙する。自分の好きなことをできなくなった子供の親の気持ちを感じ、胸が張り裂けそうになる。それだけではない。



南相馬にあった当たり前の毎日がそこからなくなってしまった現実を前に、人間の非力



さ、無力さ、そして愚かさを感じ、強烈な腹立たしさを覚えた。

「絶対に、子供達の笑顔を、この街に溢れさせてやる」そう心に決めた。

そこから市民団体の「みんな共和国」に出会い、そのテーマソングである「みんなのうた」を作成。南相馬市内の子供達や親たちと出会い、この1曲を通じて杉並の親子達と繋がりあう「南相馬 & 杉並トモダチプロジェクト」を発足。300km離れた被災地と東京の子供達が、同じ歌とダンスで繋がりあうプロジェクトは、親や地域の大人たちを巻き込み、大きな輪を作っていく。約1年ごとに開催する本公演と呼ばれるステージは、プロのミュージシャン、客演出家によるプロデュースにより、毎回4~500万円程度の制作費をかけて開催。これまでに6回の本公演を開催。2021年9月には第7回本公演を開催するが、この公演が、南相馬 & 杉並トモダチプロジェクトとしての最終公演となることを決定。震災から10年、これまでのトモプロが繋いできたものを「礎」に次の展開に向かう。

歌とダンスで結ばれていく

これまでにトモプロに参加してくれた子供達は約100名。初期から続けている子もいれば、震災後に生まれた子もいる。同じ歌、同じダンスを300km離れた場所でレッスンを続けられたのは、行き来しながら同じように

レッスンする講師の方々の並々ならぬ想いと、努力があったからだ。300km離れていても「この曲を、あの子も踊っている」と感じる事が、心が繋がる一番の方法であった。年に数回会えるトモダチ達は、同じステージを通して、同じ練習や合宿を通じて心からのトモダチになり、離れていても繋がるリアルな交流が続いた。それは大人達も同じで、被災地としての南相馬というよりも、もう一つの「ふるさと」として南相馬をいつも感じていた。

昨年より流行するコロナにより、本活動の一番必要な部分である「行き来」が制限され、子供達は1年以上同じステージに立てない。

離れた場所での2現場ライブ配信や、ZOOMでのレッスンを続けているが、リアルな交流に勝るものはない。震災で取り残されそうになった南相馬と手をつなぎ続けた10年が、いまコロナによりその手を違う形でつなぎ合わせなければいけない現実、皆が戸惑っている。

しかし、あの震災を乗り越え、前に進んできた本プロジェクトはこれからも、音楽で人をつなぎ、そこに新しい和をつくり出し続けていくと信じています。ここからの10年。南相馬から、新しい風が必ず吹きます。福島から新しい風が。そして、そこには10年つなぎ続けたトモダチの温もりが、必ずあるのです。

トモダチプロジェクト

2011年、東日本大震災をきっかけに南相馬で誕生した「みんなのうた」。この一曲がつないだ南相馬と杉並の子ども達が歌と踊りを通じて交流を続けていくプロジェクト。

ゆでガエルにならないうちに

JCF 事務局 横内香苗

福島第一原発事故から10年を迎えようとしていた2月13日、福島県沖を震源とするM7.3の地震が発生し、最大震度6強を観測しました。その第一報を私は運転中の車の中でのラジオにより知りましたが、大きな揺れにより原発は大丈夫だろうか？と頭をよぎりました。

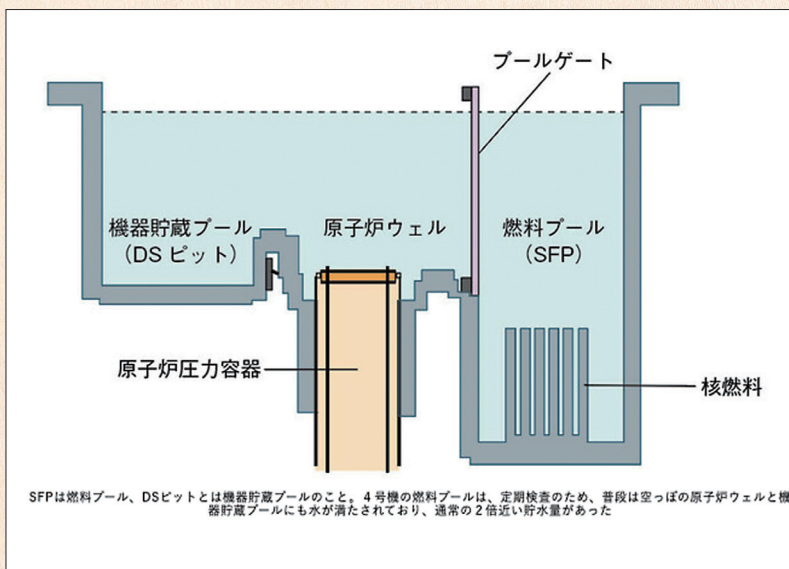
夜が明けて福島の方にメールで安否をお聞きしたところ「建物の中は散乱していますが無事です」というお返事でした。インターネットから入ってくる情報も冷却水が燃料用プールから少し漏れたが原発に異常はありませんという事でしたがこんな時こそガイガーカウンターが必要になるのではないかと思いました。万が一再び放射能が漏れた場合は安定ヨウ素剤の服用が必要です。JCF事務局では安定ヨウ素剤の各戸配布実現に向けて進める予定でしたが今年は何もできませんでし

た。今回の地震をきっかけにもう一度進めて行く必要がある事をミーティングで話し合いました。

また原発に貯蔵されている使用済み核燃料の怖さについて知人が再度認識しておくようにNHKメルトダウン取材班の記事を参考に知らせてくれました。福島第一原発の事故当時4号機プールの水が干上がらなかったのは、たまたま隣接する原子炉ウエルの仕切り板に隙間ができて、大量の水が流れ込んだおかげだった。4号機が水素爆発し、原子炉建屋最上階が壊れたことで、外からの注水が可能になったことも、まさに怪我の功名だった。爆発前、3号機の格納容器ベントによって排出された放射性物質が流れ込み、4号機の原子炉建屋には人が立ち入れない状態だった。

コンクリート注入用の特殊車両を遠隔操作

し、燃料プールに冷却水を注入できたのも4号機の爆発があったからに他ならない。もし、これらの偶然が重なっていなかったら、4号機プールの水位はどんどん低下し、使用済み核燃料がむき出しになる恐れがあった。そうなる最悪のシナリオで描かれた恐怖が現実のものになりかねなかったと記事の著者は報告しています。ちなみに使用済み



核燃料は燃えカスではなく、ウランが残っている上に猛毒のプルトニウムが生成されているのです。

2月13日の地震時、一時は免震棟の渡り廊下や休憩所で火災警報発生し原子力警戒態勢が発令されました。(TEPCO ホームページより) 後に異常なしと確認されましたが想定外の事はいつ起こるかわかりません。翌月3月20日にも宮城県沖で震度5強の地震がありました。福島第一原発の1号機～6号機のうち、3号炉、4号炉は使用済燃料プールからの取り出しは終わり、2031年までに5号機、6号機を含めすべての使用済み核燃料が取り出される予定との事です。

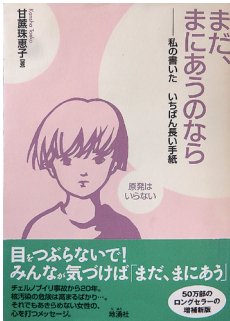
敷地内にはこれらも含め1万1千本超の使用済み核燃料があります。(原子力規制庁令和3年2月10日資料) 毎日溜まる汚染水の海洋放出の問題もあります。飛散した放射能により汚染された木材は日本各地で稼働中、もしくはこれから建設予定の木質バイオマス発電所で燃やされれば再び放射能は環境にばら撒かれるでしょう。JCFで測定する長野県内産の天然のきのこや山菜からは未だに放射能が検出され、種類によっては100Bq/kgを超えるものもあります。最近になって食品の放射能セシウムの基準値が現在1キログラム当たり100ベクレル(Bq)という値が、コーデックス委員会(CODEX)の基準値1000ベクレル(Bq)まで10倍に緩和される可能性も高まっています。日本は事故から10年経った今も原子力緊急事態宣言下にあります。1986年に起きたチェルノブイリ原発事故の翌年、福岡県に住む主婦、甘蔗珠恵子さんは広瀬隆さんの講演で原発の恐ろしさを知り、出版社に送った手紙が「まだ、まにあうのなら」という本になり、その本は反原

発運動のきっかけになりました。その19年後の2006年に増補新版を出版、さらに15年が経ちましたが相変わらず原発を止める動きになっていません。手遅れのゆでガエルにならないように再稼働をやめ、原発を手放し、エネルギーの選択に舵を切らなければと思います。

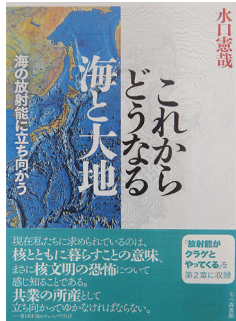
文中の記事と図の一部は NHK メルトダウン取材班『福島第一事故の「真実」』から引用しました。詳しくはQRコードを読み込んでください。



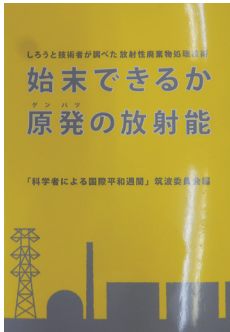
本の紹介




**「まだ、まにあうのなら
—私の書いた いちばん長い手紙」**
著者 甘蔗珠恵子 地湧社
1,000円 + 税



**「これからどうなる
海と大地」**
著者 水口憲哉 七つ森書館
1,400円 + 税



「始末できるか原発の放射能」
編著者 「科学者による国際平和週間」筑波委員会編
1,000円 + 税



DVD 「100,000年後の安全」
発売・販売元: アップリンク
4,180円 (税込み)

モスル、イブン・アル＝アシール 病院への支援

JCF 事務局 リカ・アルカザイル

最近の JCF からのイラクの子ども達へのサポートは、モスル、イブン・アル＝アシール病院へのフローサイトメーター設置で、日本外務省からの助成によるものです。それは、血液病理で血液がん（ALL・AML・リンパ腫など）の検査のためにとても大切な機器です。



イブン・アル＝アシール病院

2020年12月24日にフローサイトメーターは搬入され、その後2週間中に稼働させるための顕微鏡・分離機・CD マーカーが届きました。パソコン・プリンター・振とう器・ピペットなども。2021年1月6日に始動セレモニーが行われましたが、2月に入って、システムテックに仕事ができるようになりました。関係する小児がんと大人のがんの血液専門医達が診断が難しい病状、患者の突発的な症状について仕事の手順を一定化するために話し合いました。子ども達や大人の患者の良い治療システムを作っていくための話し合いで、彼らは皆、ドクターハーリル（プロジェ

クトの中心血液専門医）から指示された要望に同意しました。

コロナウィルスの感染拡大によって、機器の設置は数ヶ月も遅れてしまいましたが、あらゆる挑戦の結果、達成できました。フローサイトのトレーニング日程についても、ビザ申請と関係書類が準備されていましたが、突然コロナウィルスでロックダウンとなり、変更されました。こうして、私たちは、インドで行う予定だった研修を一ヶ月間、エルビルのナナカリー病院でのトレーニングに変更するという難しい局面に立ちました。2020年11月1日から30日、エルビルのナナカリーがん病院での研修が JCF の現地スタッフのコーディネーションで実現しました。興味深いのは、モスルの医師の研修に関して JCF に頼まれたイラクのフローサイト分野の血液学専門家は皆さんとても親切で研修のみならず、研修後の診断についてもチームを作り、技術の向上を図り、モスルのためになるようにプロジェクトに対しても応援しています。

文字通り、私たちはいくつかの挑戦とゴールに近づく難しさに直面していますが、結果は、モスルの人々のためになり、反応も大きいと感じますし、私たちに十分な自信を与えてくれるでしょう。そして、この医療は、急性白血病の子ども達の診断から始めることになりました。

モスルで初めてのフローサイトプロジェクトの大切な点は、遺伝子解析を通して、血液



フローサイトメトリー

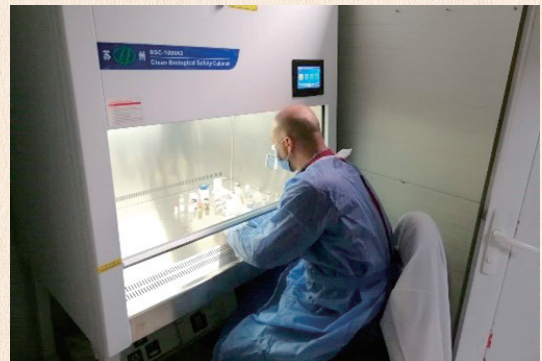
診断のスピード感ある分析が飛躍的に進む事です。悪性腫瘍が24時間以内に診断されれば、とりわけロックダウンの最中、近隣の地域に行く必要がなくなります。診断は早く、がん専門医は遠くから患者と検査試料を連れてくる保護者のストレスの負担を軽減し、急速な診断ができます。ですから、遠くからやって来た患者さん達は、一定時間内のテストで解るので、助かるでしょう。

サイトスピンとセフティキャビネットを

2020年度、モスルの子ども達のためのイブン・アル＝アシル病院のJCFプロジェクトのもう一つは、立正佼成会一食平和基金の助成によるサイトスピンを使って、解明される白血病診断です。急性白血病の中枢神経への関連を診ます。こうした正確な診断の下、適切なプロトコールが適用されます。特に、脊髄液の検査は、急性リンパ性白血病の初期診断で脊髄への関与を調べるだけでなく、中枢神経への転移と再発を診るのにも重要です。病院の小児がん専門医達の印象は良く、協力的です。なぜならば、このステップは適切な診断と結果により、配慮された適格な治療のために役立つからです。

また、同じく平和基金からの助成によっ

て、安全キャビネットが供与されました。医師や薬剤師、看護師さん達は、とても協力合っています。すべての支援と前向きな治療に向かう印象がもたれます。イスラム国によって破壊されてしまったモスルの現実の医療の向上ために後押ししてくださる事が私たちにとって道を切り開いていくモチベーションになっています。



安全キャビネット

イラク患者家族からの声

3才のB型急性リンパ性 白血病患者の父親 モスル在住

2008年に、親戚が白血病になりましたが、イラクにフローサイトメトリーが無かったので、トルコで検査しました。3000ドルかかりました。今はモスルで、無料で診断してもらえます。すごく助かります。

結果は2日でわかりました。治療もすぐ始まりました。今、息子は入院しています。日本から、より一層の協力をお願いします。日本のNGOと日本政府に感謝します。

3才の白血病患者の父親 モスル近郊の村在住

2月25日に診断を受けました。私はお金を持っていないので、フローサイトメトリーの診断はできませんでした。クルドのプライベートクリニックでは、700ドルかかります。モスルでできるので、とても助かりました。4週間治療して、骨髄検査をし、6週間前に退院することができました。

ジャザーカッラーフ ハイデン

〔神のお守りを〕 جزاك الله خيرا

JCF 事務局
加藤 文典

もう間もなく、JCF が ODA で実施してきたイラク事業が終了する。事業期間は今年の4月20日までだ。本来であれば1月20日で終了していたはずなのだが、新型コロナの影響で機材の納入に遅れが出たり、当初計画していた研修事業の研修地を急遽インドからイラク国内に変更したりしたせいで大幅な遅れが出てたため事業期間を止むを得ず3か月間延長した。当初は5年間で緊急から復興事業までを完了する予定だったが、なんだかんだあり1年延びて6年かかってしまった。ともあれ今年度事業をもって当初の目的を果たすことができ、これで一旦はイラク事業から離れることになる。

2014年のイスラム国による混乱に始まり、避難民を守るための医療施設を5か所設置してきた。そして緊急の段階をなんとか凌ぎ、今年度は復興事業として戦争で完膚なきまでに破壊されたモスルにおける小児白血病治療体制を復活させるために診断に必要な機材や検査室の設置を行った。事業期間も残り僅かになったが大凡必要なことは完了した。現地の医師に対し機材の操縦と結果を分析するためのトレーニングを行い、人材も育成できた。既に実際に用いた白血病の診断も始まっている。問題だらけで常に乱気流に揉まれながらの事業遂行だったが、仲間や関係者が負傷したり命を落としたりすることなくここまで続けることができて本当に良かった。

イラクは相変わらずだ。相変わらず時に安定し、時に不安定になる。長年イラクを見て

きたつもりだが正直なところ大局は分からない。いつ風が吹き荒れるかはわからない。わからないが、風が吹いた時にどこが脆いかということについてはある程度わかるようになったつもりだ。私たちの仕事はそこを補強すること。または補強しきれず損害を受けたところを修復する仕事だ。これは今後もしばらく続くだろう。後は引き継いでくれる JCF のスタッフ達に任せたい。

この記事に目を止めてくださったサポーターのあなたに改めてお伝えしたいのは、あなたの支援は本当にイラクの人々を助けていたということだ。それがなければ死を迎えていることも達や患者さん達がいた。彼らの苦痛は現在も続いていた。患者の治療にあたる医師や看護師は疲弊していた。家族は希望を失っていた。しかし、あなたの支援のおかげで彼らは生きることができ、彼らの苦痛は緩和され、医師や看護師たちはぎりぎりのところで踏みとどまり、患者の家族はほっと一息をつくことができた。私たちはロスを最小限にとどめつつ、あなたからいただいたエネルギーを良い変化を引き起こすために変換（伝達）することに全力を注いできた。エネルギーは化石燃料やウラン鉱石や自然エネルギーだけじゃない。あなたの意志が転換されイラクで凍える人を温め、また茹だる人を涼めた。私たちはそのためにエネルギーの伝達先を厳選し、その分量を調整するために蛇口を絞ったり、開けたりしていたに過ぎない。ただ可能な限りあなたの支援を純粋な形のまま

届けることに努めてきた。そのことは今これを読んでくれているあなたにしっかり伝えたいと思う。これまでJCFの活動のために膨大なエネルギーを送り続けてくれたあな

たに感謝したい。本当にありがとう。

とはいえ、まだもう少しだけ時間がある。その時間の中でそのことをもう少し実感してもらえるために努力するつもりだ。

アラブは美味しい バン・ラフマニー (訳：加藤丈典)

オクラトマトスープ (マラク・バーミヤー)

イラクではオクラは一年中を通じて食される野菜で、オクラトマトスープは昼食、夕食問わず最も食される代表的なイラク料理の一つです。

材 料

- 1 肉 /250g
- 2 オクラ /250g
- 3 トマトペースト /50g
- 4 塩 / 小さじ一杯
- 5 赤唐がらし / 小さじ半分 (お好みによって)
- 6 レモン / 一個
- 7 食用油 / 大さじ一杯
- 8 にんにく /3かけ？



つくり方

- 1 約1時間肉 (牛 or 羊?) を茹でる。
- 2 食用油大さじ一杯を鍋に入れ、そこに茹で肉とオクラとにんにくを加え、肉とオクラに火が通るまでおよそ10分いためる。
- 3 そこに肉汁を加え、沸騰させる。
- 4 そしてそこにトマトペーストと塩を加え、お好みによって赤唐辛子を加え、さらにレモン汁を加えたら、約20分煮込む。
- 5 完成。パンまたはお米を添えて召し上がれ。

「人間が汚した土地だろう。 どこへ行けというのか」

2021年ドキュメンタリー映像 40分・ポレポレタイムス社

撮影・編集 早川 嗣



撮影：本橋 成一

ベラルーシ、ベトカ地区、パーブジェ村、1995年春に撮影された映像だった。

たくさんの牛が、池に向かって歩いて行く。そう、放牧されている、と言うよりは水を求めて、牛自からの自然な動きだ。アルカーギイ・ナボーキンさん（85才）は、後ろから見送りながら、話し出した。

「ここには、電気がない。水道もない。だけど私は自由に暮らしている。これから、ジャガイモを植えるよ」と小さな小芋を等間隔で土に植え付けていく。

牛は27頭。隣のバルトロメフカ村で、学校教師をしていた。最初は、2頭の牛だった。

ところが、1986年にチェルノブイリ原発事故が起きた。以後、この地域からは、農産物や牛の肉も売れなくなってしまった。その結果として、毎年生まれた牛の赤ちゃんは成長して、27頭になったのだ。

事故直後は、何も知らされなかった。徐々に高汚染だと解り、村人は避難していった。子ども達も居なくなった。「ここには、広場があった。ダーチャ（市街地に暮らす人々が休日を過ごし、越冬用の野菜を栽培する）もあったんだ。この自然はどうだい？ 豊かだろう。移住したら、こんな豊かな自然はないよ。池の水はきれいだよ。牛たちは、この

水を飲むんだ。」

ナボーキンさんは、根っからの自由人だった。「コルホーズやソフホーズで働くこととお仕事がお金に代わる（農産物もお金に換えるために作る）。私は自分のためにこうして働いている。私が生きていくための仕事はこれでやっているといる。」原発の高汚染地となったばかりに、ナボーキンさんの足下から浮かび上がった自由と孤独。しかし、ここには、人間が生きる根源をなすものがシンプルに見えるのだ。国の経済の仕組みの中に自分の生きていく術をゆだねない、括りの中に自分のいのちをゆだねない。

この出会いから、チェルノブイリの汚染地を舞台に2本のドキュメンタリー作品の制作が始まった。10ヶ月後、スタッフとロケハンに訪れた時、案内されたのは、ナボーキンさんのお墓だった。連邦崩壊後のインフラの生活苦が人々を蝕んでいた。牛泥棒に抵抗したナボーキンさんは、泥棒3人に殺されたと聞いた。冒頭の「ドコイケ」はナボーキンさんの残されたメッセージだ。

豊かさの質を問う。今あるコロナ禍の下で、先行きが見えないまま、私たちの歩んでいく先を模索していくとき、ナボーキンさんの奏でるバイーンの調べが響いてくる。カタ



コトと鳴らない鍵盤の上に指が動く。楽曲のノートを出窓に置き、秋に取り入れた野菜の種をざら紙の上に広げて、翌年のために備える。自然の循環の中に、人が無理することなく置かれている。

今、再び、「ナージャの村」撮影の発火点になったナボーキンさんをたどる。大人になったナージャ、村を離れた「アレクセイと泉」のアレクセイの今を訪問する。そして、ナージャとアレクセイに出会って25年あまりの年月に、彼らの変遷に関わりつつ、思う。それぞれの人々の営みを確かにするものは、様々な関わりの中に転々と散らばっている。日本から、ベラルーシから、ロシアを通して、交換し合った映像を、ぜひ、皆さんにお届けしたい。

「コルホーズ」は集団農場 「ソフホーズ」は国営農場

上映日程

4月17日（土）～4月30日（金） ポレポレ東中野にて上映

4/25（日）14:20 『人間の汚した土地だろう～どこへ行けというのか』

上映後 渡辺一枝（作家）× 神谷さだ子（日本チェルノブイリ連帯基金）× 本橋成一（写真家）トーク

4/26（月）14:20 『人間の汚した土地だろう～どこへ行けというのか』

上映後 神谷さだ子（日本チェルノブイリ連帯基金）× 本橋成一（写真家）トーク

ポレポレ東中野

〒164-0003 東京都中野区東中野4丁目4-1

URL : <https://pole2.co.jp>



検体番号	測定日	試料名	産地	重量 (g)	測定時間 (s)	Cs137測定値 (Bq/kg)	Cs134測定値 (Bq/kg)
2300	11月5日	ムラサキシメジ	長野県上田市	180	72000	ND < 6.11	ND < 6.93
2302	11月9日	ひらたけ [菌床]	長野県佐久市	616	54000	ND < 2.18	ND < 2.45
2301	11月9日	セロリ	長野県	461	18000	ND < 5.03	ND < 5.69
2303	11月11日	鶏肉団子	国内	769	18000	ND < 3.12	ND < 3.5
2304	11月17日	豆乳	長野県	1079	18000	ND < 2.35	ND < 2.63
2305	11月18日	インゲン	北海道	666	18000	ND < 3.55	ND < 3.97
2306	11月24日	じゃがいも	北海道	870	18000	ND < 2.83	ND < 3.18
2307	11月25日	コンニャク	国内	1049	18000	ND < 2.36	ND < 2.64
2308	12月1日	鶏肉 [モモ肉]	長野県	946	18000	ND < 2.8	ND < 3.12
2312	12月2日	砂糖 [三温糖]	オーストラリア、日本、タイ	876	18000	ND < 2.71	ND < 3.02
2309	12月2日	薪チップ	長野県坂城町	104	54000	ND < 12	ND < 13.6
2310	12月3日	コケ [土壌含む]	栃木県日光市	104	14400	3080 ± 566	179 ± 34.6
2316	12月8日	土壌	長野県軽井沢町	118	54000	1250 ± 226	66 ± 12.7
2315	12月8日	チンゲン菜	静岡県	497	18000	ND < 4.64	ND < 5.23
2318	12月9日	生姜	高知県	605	18000	ND < 3.97	ND < 4.45
2317	12月9日	落ち葉	長野県軽井沢町	109	54000	408 ± 77.5	17.4 ± 9.72
2311	12月10日	灰	長野県上田市	802	54000	17.4 ± 3.31	ND < 3.65
2320	12月16日	落ち葉	長野県軽井沢町	92	54000	ND < 1.37	ND < 1.56
2319	12月16日	松本一本ねぎ	長野県松本市	411	18000	ND < 5.54	ND < 6.27
2321	12月17日	白菜	茨城県	691	18000	ND < 3.36	ND < 3.8
2323	12月21日	りんご	福島県福島市	643	57600	ND < 2.02	ND < 2.28
2325	12月22日	ごぼう	青森県	646	18000	ND < 3.7	ND < 4.17
2324	12月22日	ヤーコン	福島県福島市	516	61200	2.01 ± 1.11	ND < 2.81
2327	12月23日	落ち葉 [3]	長野県軽井沢町	134	54000	ND < 9.35	ND < 10.6
2326	12月23日	にんにく	長野県松本市	630	18000	ND < 3.78	ND < 4.27
2328	1月12日	干し柿	長野県	777	18000	ND < 3.5	ND < 3.92
2331	1月13日	干し柿	長野県	420	64800	ND < 2.89	ND < 3.29
2329	1月13日	牛乳 [牛乳]	長野県	1010	18000	ND < 2.46	ND < 2.75
2335	1月19日	長芋 [山芋①]	福島県三春町	682	64800	ND < 1.84	ND < 2.09
2330	1月20日	土壌 [①]	群馬県前橋市	597	64800	443 ± 79.9	20.5 ± 4.21
2336	1月21日	長芋 [山芋②]	福島県三春町	641	64800	ND < 1.99	ND < 2.25
2337	1月26日	エリンギ	長野県	751	18000	ND < 3.24	ND < 3.63
2332	1月26日	土壌 [②]	群馬県前橋市	448	64800	457 ± 82.7	22.2 ± 4.73
2338	1月27日	エノキタケ	長野県安曇野市	514	18000	ND < 4.6	ND < 5.2
2333	1月27日	土壌 [③]	群馬県前橋市	299	64800	556 ± 100	28 ± 6.11
2339	2月2日	ウィンナー	不明	732	18000	ND < 3.28	ND < 3.68
2334	2月2日	土壌 [④]	群馬県前橋市	150	64800	674 ± 122	32.9 ± 6.7
2340	2月3日	白玉だんご	国外 [タイ]	998	18000	ND < 2.58	ND < 2.81
2341	2月9日	豚肉 [ももスライス]	長野県	1043	18000	ND < 2.47	ND < 2.76
2342	2月10日	キャベツ	愛知県	424	18000	ND < 5.38	ND < 6.09
2343	2月16日	ほうれん草	茨城県	490	18000	ND < 4.78	ND < 5.41
2344	2月17日	小松菜	群馬県	440	18000	ND < 5.27	ND < 5.93
2345	2月22日	玉ねぎ	北海道	690	18000	ND < 3.4	ND < 3.84
2346	2月24日	里芋	大分県	748	18000	ND < 3.34	ND < 3.78

NDとは検出限界値未満のことで、ND<の右の数字が検出限界です。検出限界とは放射能を検出することのできる下限値で、有意な放射能とは、統計的に見て、バックグラウンド値と明らかに異なる放射能が検出されたと判断できるということです。(単位: Bq/kg) 放射能濃度には誤差(±の右の数字)があります。

※検体量が少ない場合は、測定結果の精度が十分でない可能性があります。

食品衛生法上の基準値

(厚生労働省 医薬食品局食品安全部 平成24年4月1日施行)

放射能セシウム	飲料水	10Bq/kg
	牛乳	50Bq/kg
	一般食品	100Bq/kg
	乳児用食品	50Bq/kg

皆さまへのお願い

遠くアルプスの連山を望みながら、暖かい陽気に動きが軽くなります。
しかし、この一年間、コロナ禍の下で過ごし、更に底止まりが見えない中、
ウィルスの変異株やワクチンに対する不安材料など、心配は絶えません。

かく言う私も年齢と共に様々な病気のアタックを受け、生きること、
死が身近にあることを経験してきました。

身仕舞いをどうしようかと思いました。

この1年と言わず、2年の間に、30周年を迎えた
JCF/日本チェルノブイリ連帯基金は、決してコロナのためだけではなく、

運営資金繰りが苦境に立っています。

まだまだ、イラクや原発について取り組んでいかなければならない、
と気持ちは前のめりになりますが、

現地から届く、医療資機材のリクエストに頭を痛めています。

県外への移動、海外への渡航ができなかった昨年度から、
今年度は、少しでも明るい動きができればうれしい限りです。

新年度を迎え、皆さまのご遺志で、

JCFの活動を応援していただきたく、お願い申し上げます。

戦火・テロによる生活インフラと医療サービスの崩壊にある
イラクの子ども達の命を救うために、チェルノブイリからの学びを、

今なお、廃炉修復の道筋も見えない福島に

つないでいく安定ヨウ素剤の問題など、

JCF活動を支えていただきたく、切にお願いいたします。

JCF 事務局長 神谷 さだ子

ふりこみ用紙の メッセージから

今年も残りわずかとなりました。このたび、貴団体の活動を支援いたしたく、下記の通りクリスマス献金をお送り致しましたので、お確かめください。益々のご活躍をお祈りいたしております。

どうぞ
お元気で。

コロナ禍が
今年は収束します
ように

少しですが、よろ
しく願います

お送りいただき
ましてありがとう
ございます

グラントゼロお送りくださりありがとうございます。イラクの子ども達も福島の子も達もつらい思いをしている世界中の人々が幸せに一步でも近づけますようにと願わずにはいられません、少しですがお役に立てるとうれいす。よろしく願います。

このような時代だからこそ、人々の連帯と支援、絆が必要です。皆さんのご活躍とご健勝を祈っています。

ご活動
ありがとう
ございます。

少しでもお役に
立てますように

チョコ缶の絵を描いた
ディルガシュちゃん、9
月に永眠されたと知り、
せつなくなりました。ま
だ12歳だというのに…

今回で最後にさせて
頂きます。長いこと
お世話になりました。

困っている
人々に役立てて
ください。

園児からの
クリスマス献金

会員の
クリスマス献金より
お送りします。

少額ですみません。

今年はバザーが開けず少額
に成りましたが少しでもお
役にたてましたら幸いです。

クリスマスカードありがとう
ございました。励みになります。

紛争やコロナが早く収まり、平
和な日々がくることを祈ります。

今後も精進し、少
しでも多くのご支
援が出来ますよう
頑張ります!!

また地震がおきました。心
が痛みます。心ばかりです
がいつも応援しています!

良いDVDを、ありがとうござ
いました。私のふるさと福島
のための支援もありがとう
ございます!今回知りました。

干支の貯金箱送っていただき、
ありがとうございました。

グラントゼロNo125とクリスマ
スカードを有難うございました。

Merry
Christmas!

少しですが
お役に
立てたら…!

事務局の皆さま、く
れぐれもお身体大切
に。そして、福島の
皆さま、くれぐれも
お身体大切に!

皆様方のご健康
心よりお祈り
致します。

悲しみのない世界に。
一緒に頑張ります

クリスマス献金

誰もが、自分が生まれ
てきた価値を感じられ
る社会であってほしい。

グランドゼロ 第126号

発行日 2021年4月26日

発行人 鎌田 實

発行所 日本チェルノブイリ連帯基金

イラスト題字 貝原 浩
 イラスト 榎野ひかり
 スタッフ 神谷さだ子
 横内香苗
 中澤啓子
 加藤丈典
 リカ アルカザイル
 本山 香
 印刷 電算印刷

編集後記

「ゆく河の流れは絶えずして・・・」この地で暮らし、この地で人とのつながりを紡いできた日々。3月11日は、東日本大震災から10年。4月26日は、チェルノブイリ原子力発電所大爆発事故から35年が流れた。時は人々の意識を少しずつ変えていく。しかし、心の奥底にこびりついた消えない想念がある。

災害は、繰り返し、繰り返しやって来ては私たちを恐怖に陥れて、去って行く。「3・11」、「4・26」で区切りを付けることができるだろうか。

私たちが経験したたくさんの辛い思いと失ったいのち。同じように繰り返すことがないように、そこから学び取る。とは言え、やって来る恐怖にどう向き合えばいいのだろう。

無力感の中でもつながった人との、声の質感・言葉の裏に潜んでいる共感を感じ取ることができる。そして、また、シンプルな日常時間の中を歩み始める。



「YouTube JCF チャンネル

ご覧ください」

世界中に蔓延した新型コロナウイルスの影響で国内での活動はもちろんですが渡航も困難となりました。そんな時、長野県みらい基金による休眠預金による緊急支援の助成金を利用出来る事になり、動画を製作し広く配信し伝えていく事にしました。甘酒を利用した「発酵食講座」、「みんなのデータサイト」との放射能学習会、力丸邦子さんによるベラルーシ訪問時の子ども達の様子と原爆詩の朗読、理事長・鎌田實がチェルノブイリを



訪問した時にお会いした被災地で今なお暮らす人々の様子、子どもの検査、治療をし続ける現地の医師を訪問した時の様子も交えながら原発との向き合い方やコロナ禍での生き方を YouTube チャンネルで配信しています。力丸さんは1997年から何度もベラルーシに赴き、子ども達に読み聞かせをしたり、文通によって子供たちと交流し続けて来た方です。動画では当時のエピソードもお話して下さいます。あの時出会った子供たちは今どうしているのでしょうか？朗読は書籍「原爆詩一八一人集」より若松丈太郎さんの「死んでしまったおれに」と「既視体験」を。動画の撮影は高校生時代に放送部に所属し、力丸さんとベラルーシに同行した本山（現在 JCF スタッフ）です。本山は JCF のスタディーツアーでこれまで2度、ベラルーシを訪問しています。今回の動画撮影のために力丸さんとの十何年ぶりの嬉しい再会を果たしました。

今後もイラク料理や福島も動画にアップして行く予定です。どうぞご覧になりチャンネル登録よろしくお祈りします。

インターネットで YouTube を検索 →
 日本チェルノブイリ連帯基金 →
 チャンネル登録をクリック



JCF
JAPAN CHERNOBYL
FOUNDATION



https://www.youtube.com/watch?v=VQUf4IUOx_E

◆ JCF へのご寄付は寄附金控除の対象になります。
 JCF は長野県から「認定 NPO 法人」として認定されております。

◆ JCF 寄付・会費振込口座

正会員年会費 (1口)	10,000 円
賛助会員年会費 (1口)	3,000 円
郵便振替口座番号	00560-5-43020
加入者名	日本チェルノブイリ連帯基金

イラク医療支援振込口座は左の口座に統合しました。統合口座で、イラク支援に寄付ができます。引き続きご支援の程よろしくお祈り致します。

● 特定非営利活動法人

日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF)
 〒390-0303 長野県松本市浅間温泉2-12-12
 TEL 0263-46-4218 FAX 0263-46-6229
 E-mail asama@jcf.ne.jp Website <http://jcf.ne.jp>



感想をおきかせください



Eメール



ウェブサイト